

令和4年度  
全国学力・学習状況調査の結果と分析



長門市教育委員会学校教育課

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和4年4月19日

(3) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生

### (4) 調査内容

- ①教科に関する調査（小学校…国語、算数、理科 中学校…国語、数学、理科）
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙

## 2 学力調査の結果

(○: 比較的良好にできている点 ●: 課題がある点)

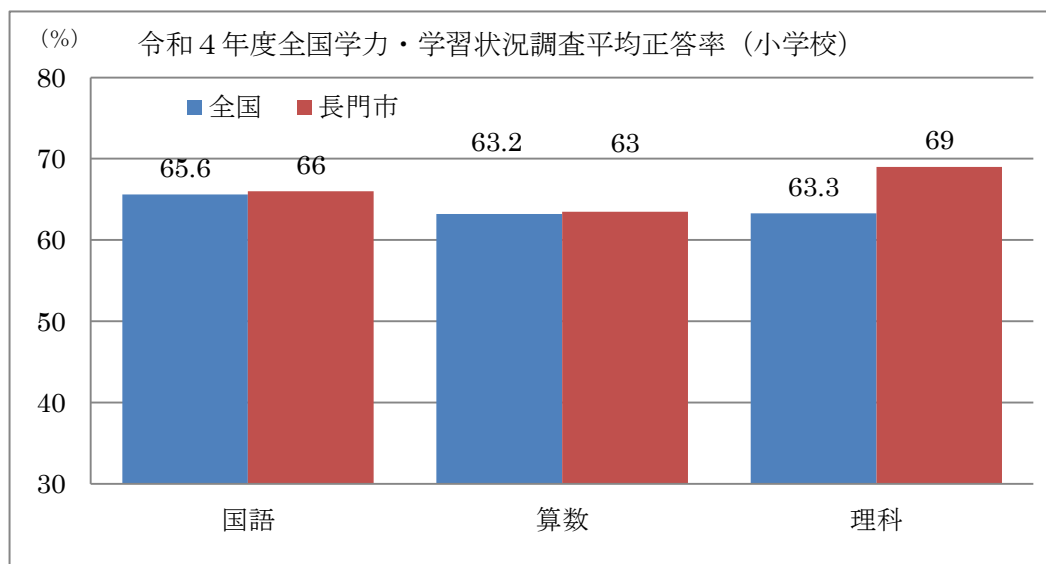
### (1) 小学校

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	9.2/14 問	9.2/14 問	65.6	66
算数	10.1/16 問	10.2/16 問	63.2	63
理科	10.8/17 問	11.8/17 問	63.3	69

### ※学力調査結果についてのグラフの見方

学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

平成29年度から、県や市の平均正答率は整数値で提供されている。



平成28年度の調査から、全ての教科において、全国平均を上回っており、安定した結果を残してきた。令和4年度の調査では、国語科と算数科については、全国平均とほぼ同程度ではあるが、やや上回った。理科については、全国平均を5ポイント以上上回った。

#### 【国語科】

- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える。
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。
- 登場人物の行動や気持ち、登場人物の相互関係などについて、叙述や描写を基に捉える。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。

#### 【算数科】

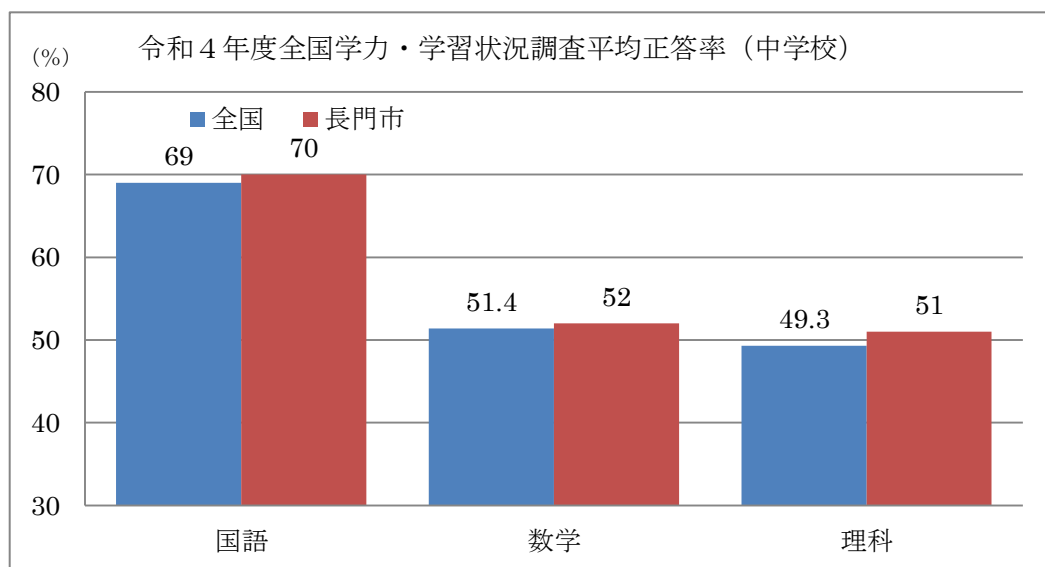
- 二つの数の最小公倍数を求めることができる。
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。
- 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。
- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。
- 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成に仕方について理解している。

#### 【理科】

- 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
- 観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもちることができる。
- メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。

## (2) 中学校

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	9.7/14 問	9.8/14 問	69.0	70
数学	7.2/14 問	7.3/14 問	51.4	52
理科	10.4/21 問	10.8/21 問	49.3	51



平成30年度の調査から、全ての教科において、全国平均を上回っている。令和4年度の調査では、数学科が全国平均とほぼ同程度だったものの、全ての教科において、全国平均を上回った。

### 【国語科】

- 文脈に即して漢字を正しく書く。
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。
- 論理の展開などに注意して書く。
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。

### 【数学科】

- 自然数を素数の積で表すことができる。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。
- 一次関数の変化の割合の意味を理解している。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
- 筋道立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

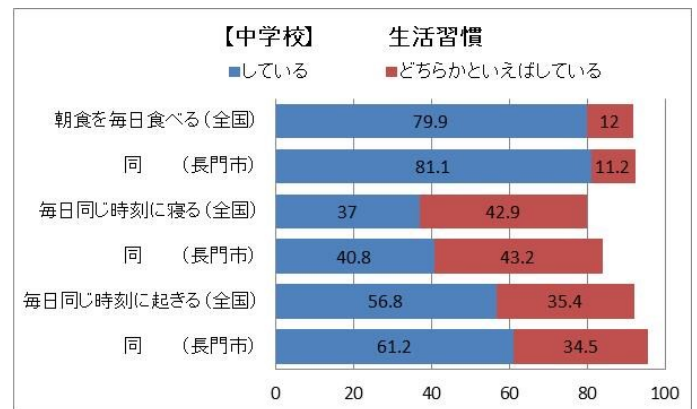
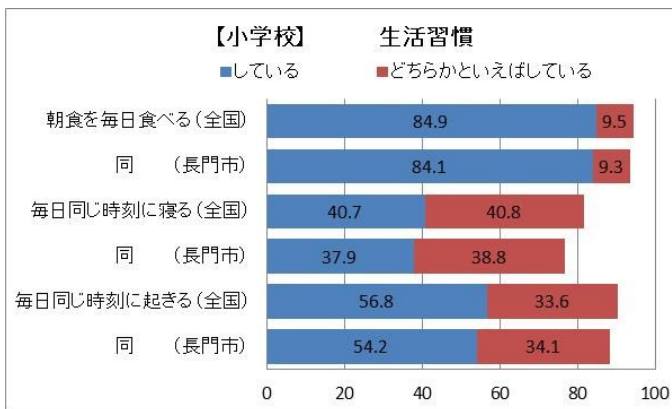
【理科】

- 水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できる。
- 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できる。
- 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる。
- 予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができる。

3 児童・生徒質問紙集計結果

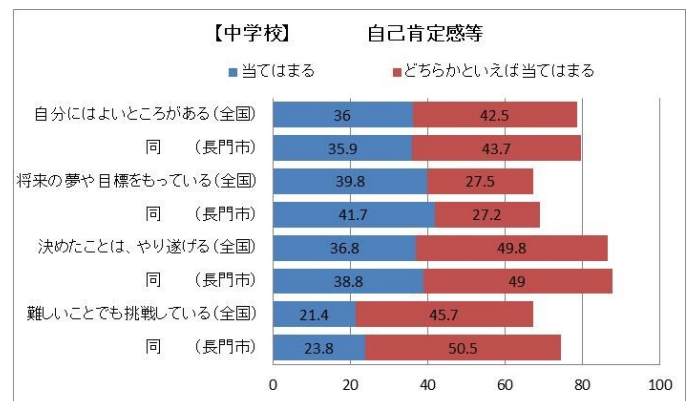
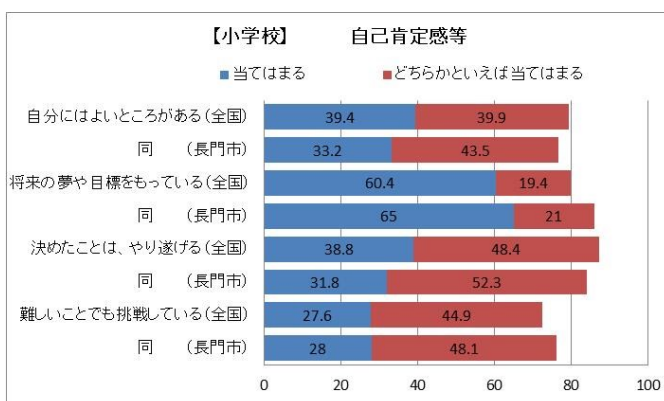
(○:よい点 ●:課題がある点)

(1) 生活習慣など

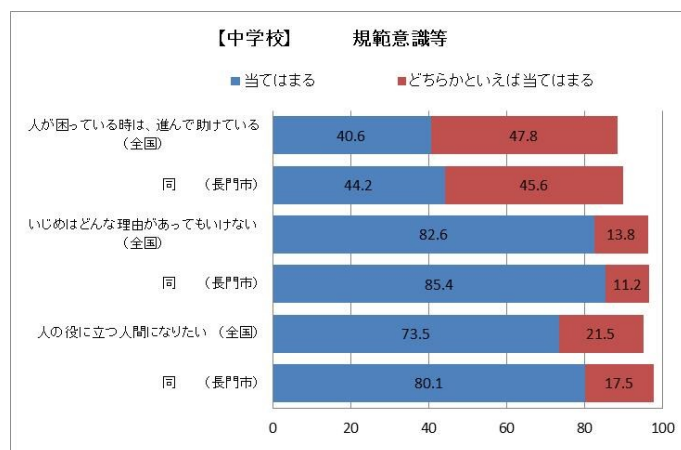
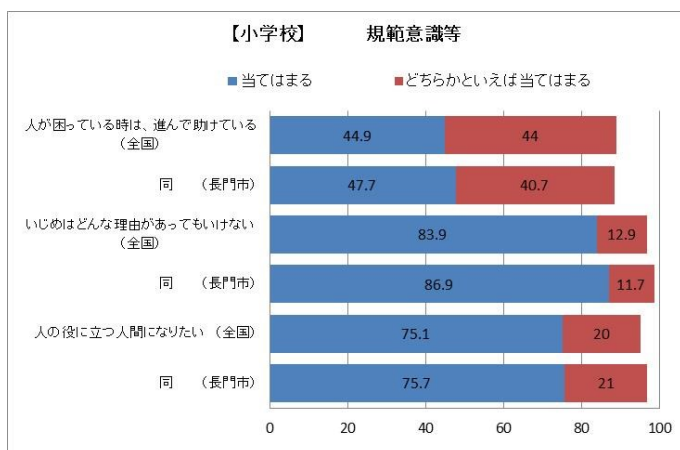


- 中学校において、毎日同じ時刻に寝る、毎日同じ時刻に起きると回答した生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 小学校において、毎日同じ時刻に寝る、毎日同じ時刻に起きると回答した児童の割合は、全国と比べて低い。

(2) 意識や経験など

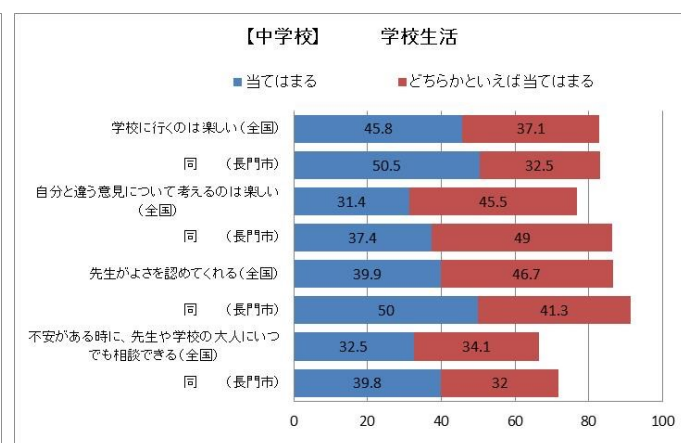
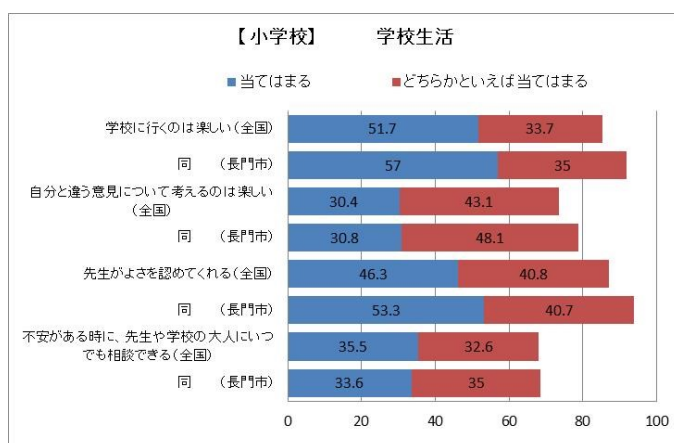


- 将来の夢や目標をもっていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 小学校において、自分にはよいところがあると思うと回答した児童の割合は、全国と比べて低い。
- 小学校において、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した児童の割合は、全国と比べて低い。



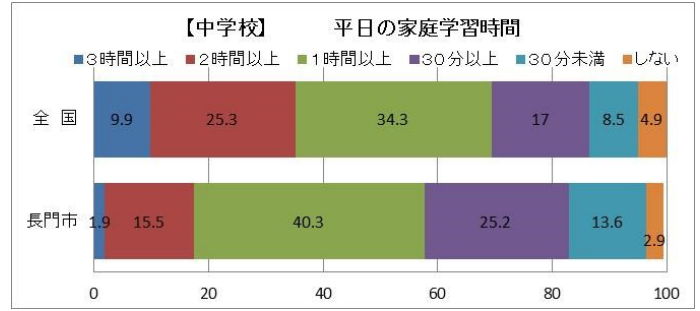
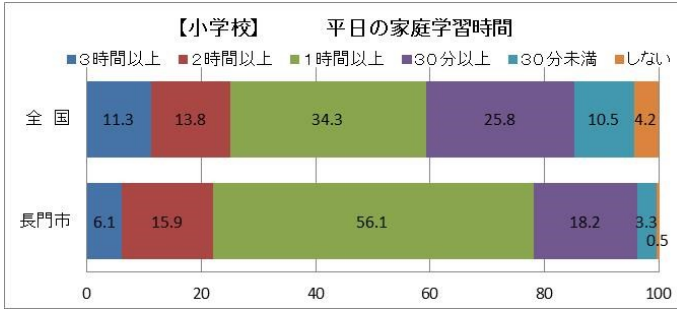
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

### (3) 学校生活など



- 学校に行くのは楽しい、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

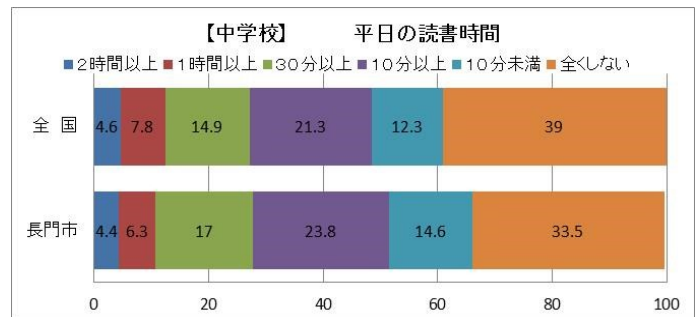
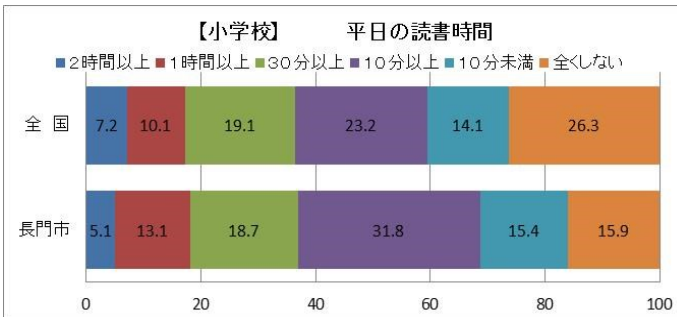
(4) 家庭学習の習慣やテレビゲーム、SNSとの付き合い方など



※学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

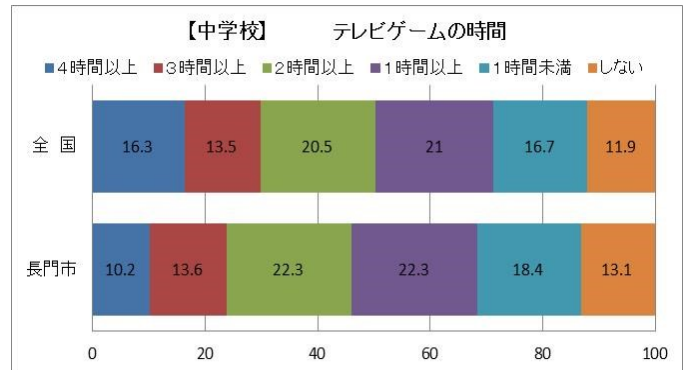
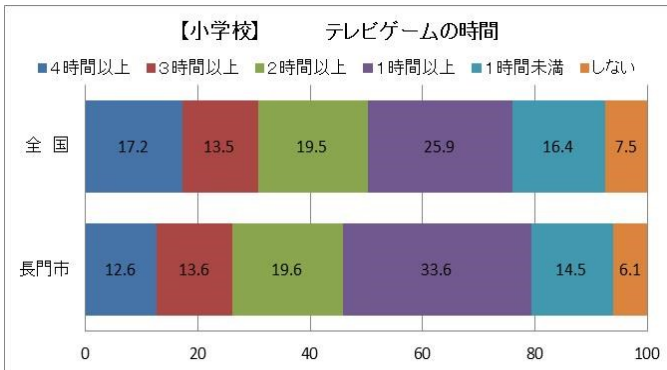
○小学校では、平日1時間以上の家庭学習をしている児童の割合は、全国と比べて高い。

●中学校では、平日2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は、全国と比べて低い。

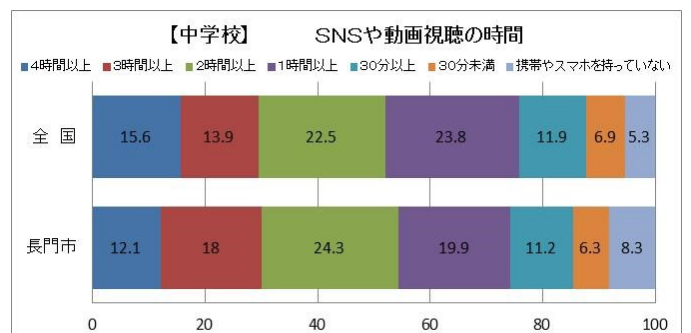
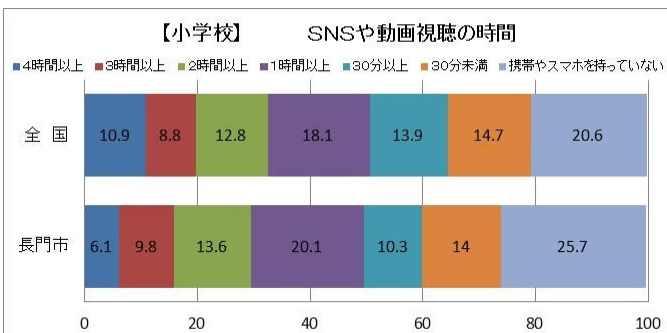


※学校の授業時間以外の1日当たりの読書時間（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

○小学校では、平日10分以上読書をしている児童の割合は、全国と比べて高い。

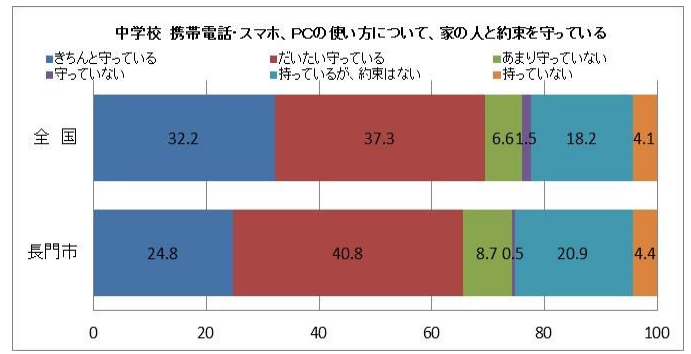
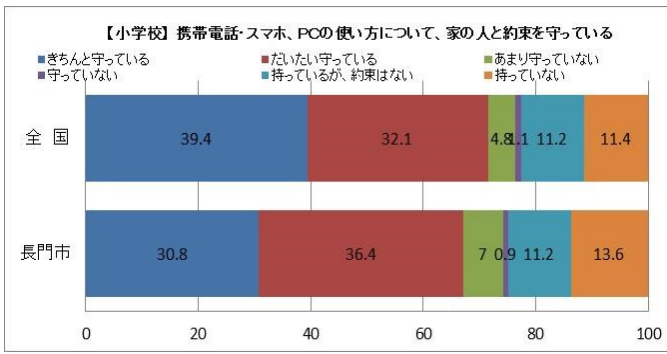


※1日当たりのテレビゲーム時間（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）



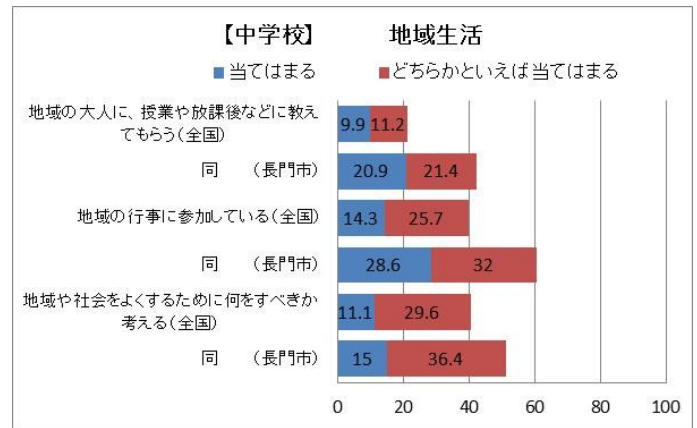
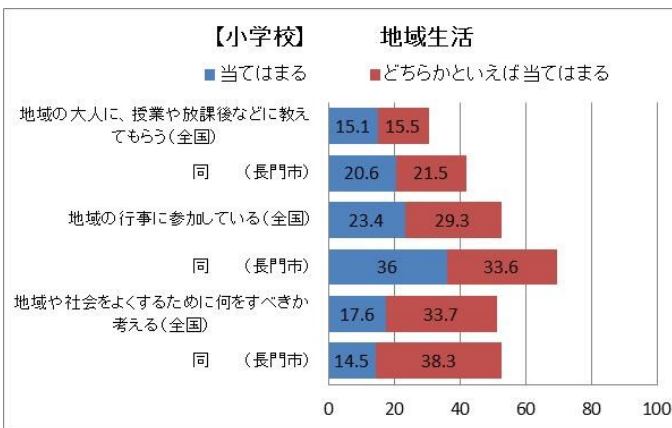
※1日当たりの携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている時間（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

●テレビゲームの時間、SNSや動画視聴の時間の割合は、全国と概ね同程度である。



●携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を守っている回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

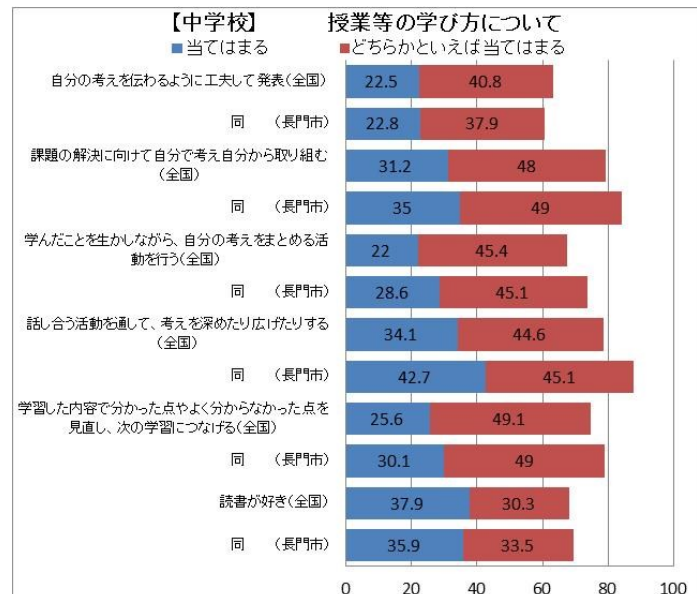
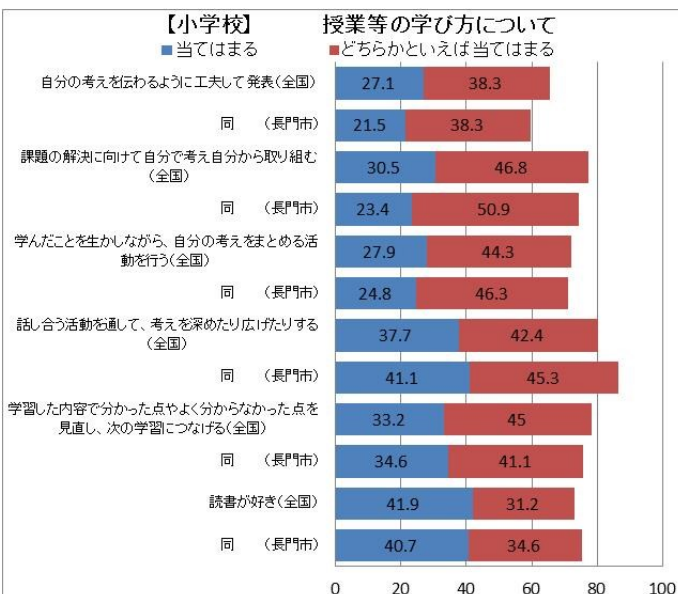
### (5) 地域や社会との関わり



○地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある(習い事の先生は除く)と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

○今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

### (6) 学びに向かう姿勢・授業、ICTなど



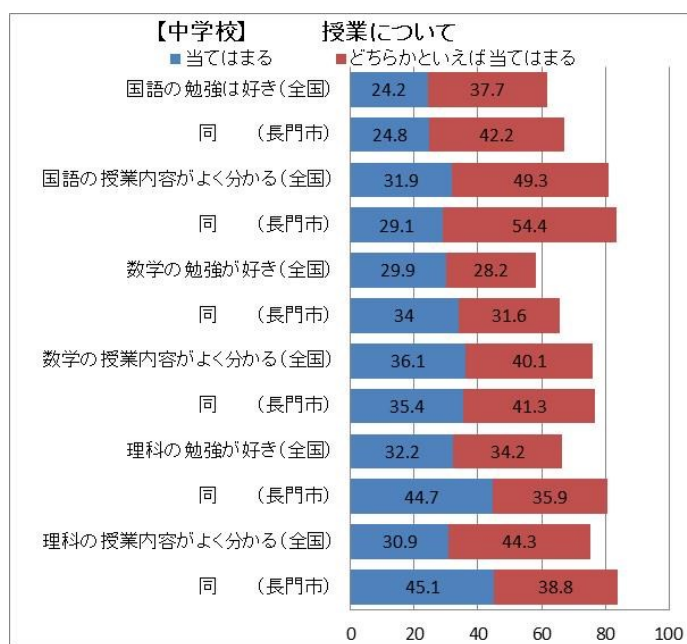
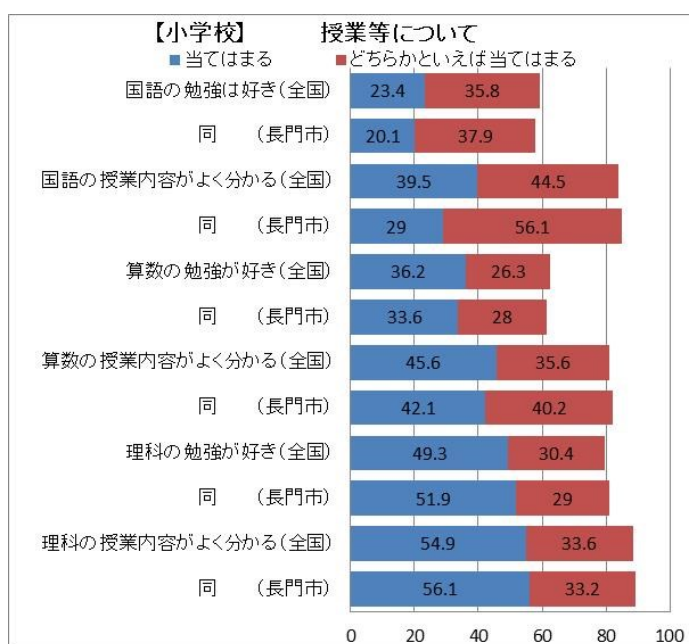


○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

●授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

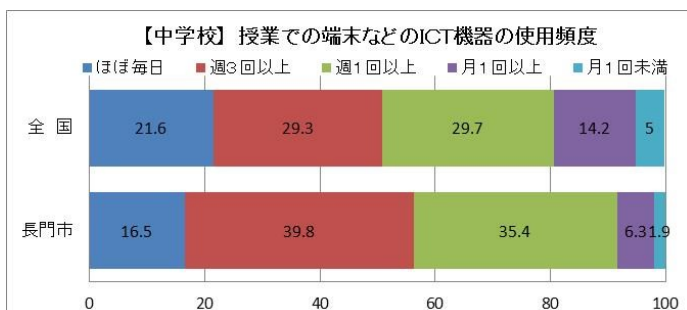
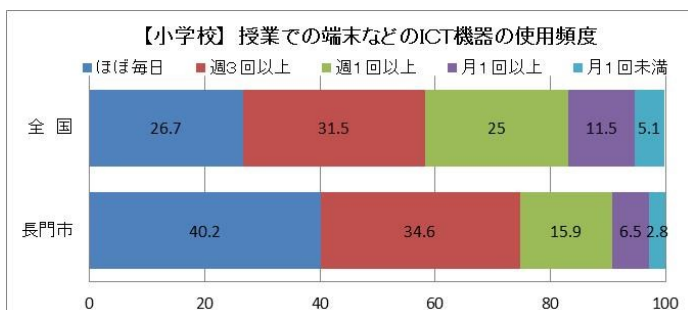
●小学校において、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合は、全国と比べて低い。

●小学校において、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていると回答した児童の割合は、全国と比べて低い。



○授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合は、全ての教科において全国と比べて高い。

●小学校において、国語の勉強が好き・算数の勉強が好きと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。



○小学校において、授業でほぼ毎日または週3回以上、PC・タブレットなどのICT機器を使用すると回答した児童の割合は、全国と比べて高い。

●中学校において、授業で週3回以上または週1回以上、PC・タブレットなどのICT機器を使用すると回答した生徒の割合は高いが、ほぼ毎日と回答した生徒の割合は、全国と比べて低い。

## 4 学力向上に向けた今年度の取組

### (1) 学校での組織的な取組の推進

- ・学校全体で成果と課題を共有し、管理職や学力向上担当者等を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- ・年間2回実施する市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、市の課題やめざす授業の方向性を共有するとともに、各校のプランの見直しや改善を図り、授業改善を推進する。

### (2) 教員の授業力の向上

- ・全国学力・学習状況調査の誤答分析を基に、「思考力・判断力・表現力の育成（根拠や理由を明確にして説明することなど）」の指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・教科の学びを深めること・教科の本質に迫ることをめざして、授業で1人1台端末を効果的に活用するとともに、教員のICT指導力の向上をめざし、ICTに関する研修や情報共有等を充実させる。
- ・身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかどうか、教師も児童生徒も確認できる授業をめざし、授業の「振り返り」の確実な実施を図る。
- ・市内全ての教員が「児童生徒による授業評価」を年5回実施し、児童生徒の視点に立って自身の授業を見直し、「わかった・できた」を実感できる授業づくりを推進する。
- ・学校担当指導主事や学力向上推進リーダーによる効果的な指導方法の普及を図り、小中連携の取組や各校の校内研修を充実させる。

### (3) 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ・学校運営協議会で学力向上に向けた課題の共有や課題解決の熟議を行うなど、地域との連携を図り、地域人材を生かした学力向上に取り組む。
- ・家庭との連携を推進し、家庭学習（時間の確保、自分で計画を立てる等）や読書習慣の定着を図る。また、県教委作成の「やまぐち学習支援プログラム」などを活用したり、授業とリンクした課題に取り組ませたりするなど、家庭学習の充実を図る。
- ・「学びや育ちのカリキュラム（学校・地域連携カリキュラム）」を整理し、地域との連携や各教科との関連を図りながら、身に付けさせたい資質・能力を明確にして、学力向上の取組を推進する。

■ 調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)
- ・ [山口県教育委員会 義務教育課 学力向上「全国学力・学習状況調査」](#)